

今までの授業

「読むこと」については教科書の音読、ワークシートなどを活用した読解に加え、小テストなどを通じて読む力をつけてきた。また、小グループでの対話的・協働的な学習場面の設定により、読解に必要な思考力の育成を図った。

「書くこと」については、多様な種類の文を作ることを通じて表現力を育み、また定期考査にも記述式の設定をバランスよく配し、書く力を養ってきた。

「言語事項」については、文章中の語句の意味調べや新出漢字を使った語彙の反復練習と小テストなどで知識の定着を図ってきた。

今回の調査結果

1年生の「総合学力調査」では、総合的には全国および日野市の平均を上回っているが、「言葉・情報・言語文化」の領域のみわずかに下回った。

2年生の1学期中間・期末テストでは、知識・技能の得点率は55ポイント、思考・判断・表現は61ポイントであった。

3年生「全国学力・学習状況調査」では「言葉・情報・言語文化」の領域で全国および東京都の平均を下回った。

原因

話したり書いたりする学習に抵抗感を感じずに積極的に取り組む生徒が多いのは、協働的な学習の取り組みが一定の成果を得ているものと考えられる。

一方で、各学年とも「言葉・情報・言語文化」、すなわち知識及び技能の領域に課題があることが、「読むこと」の領域の課題につながっている。

協働的な学習の促進を図ろうとするあまり、一人一人が個別に行う学習とのバランスが悪くなっていた可能性がある。両者を巧みに使い分けて授業を構成する必要がある。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- 教材の中に含まれている社会的なテーマと実生活の結びつきを感じさせることで、国語が社会に深く関連した学習であることに気づかせ、興味や意欲の向上を図る。

【授業の一部または全部を改善すること】

- 生徒同士の主体的・対話的な学びを促す活動の場면을効果的に設定しながらも、個別最適な学びの時間を十分に確保することで言語に関する基礎的な知識・技能の定着を図る。

第2学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- 授業内では、漢字や文法の小テスト等を継続して実施し、言語に関する基礎的な知識・技能を定着させ、語彙を増やしていく。
- グループ活動を中心に、生徒同士の対話の場面をより多く設定し、互いの意見の共通点や相違点を見出す力を身につけさせる。

【授業の一部または全部を改善すること】

- グループ活動では、生徒同士の話し合いは積極的に行われているので、さらに個別最適な学びの時間にできるように、一人一人の考える時間を十分に確保していく
- 自分の意見を自分の言葉で話すこと・書くことができるように、語彙力の向上を図り、表現する力を身につけさせる。

第3学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- 授業においてペアまたはグループでの話し合い活動を多く設定し、多くの他者の考えに触れることによって自分の考えを深められるようにする。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ペアまたはグループでの話し合いを行う前に、個人で考える時間をより多く設ける。
- 生徒がスムーズに活動を始められるように、指示内容を明確かつ端的に伝える。
- 漢字や語彙の小テストを実施することで、基礎的な言語知識を定着させる。